

なぜ、住の江幼稚園では、全部給食ではないのか？

幼稚園としても、毎日給食のほうが効率がいいのです。お母さんも楽です。働いておられる保護者の方からも、ご要望はあります。でも、週に二日はお弁当です。なぜなら**子どもが一番喜ぶのはやはりお母さんが作ったお弁当**です。小学校では毎日給食です。この時期だからこそ出来るだけお弁当を作ってあげてください。思ったより大変じゃなかった、最初は負担に感じたけど今ではたのしい、もうすぐ小学生なのでお弁当じゃないから少し寂しい。という声をよく聞きます。**親子のコミュニケーションのため**にもぜひ。

住の江幼稚園の絵画造形教育は？

住の江幼稚園で行っている造形活動は**楽しいという事が基本**です。

絵画で毎年多数の賞を受賞していますが、それはあくまで子どもたちの自信につながるように、一人にひとつの賞が取れる事を目標にしているからなのです。(指導の内容も日本で有数であろうと自負しております。)

住の江幼稚園での絵画造形活動の基本的な目標は、子どもたちの**感性を育む**ことです。我々は子どもの感性を育てる為に普段の保育や造形あそびの中で本来の子どもの姿を大切に活動しています。

その時の指導で留意していること、大切だと考えていることは、

1. 意味不明のグチャグチャした活動は大切である。
2. 子どもにとって出来る限り制約の無い活動は大切である。
3. その活動に子どもが大人に対して説明をつけなくてよいという事や、説明が付かない活動を大切にすること。

その様な事を大切にすることが、本来の子どもの姿を大切に活動となると考えています。

- ・子どもにとっての**表現**は、技術や方法論などではなく、
- ・子どもの意思を**表**しながら
- ・子どもの無意識が**現**れるようにすることなのです。

表現力が付くという事は、自分と違う価値観に出会い、それを認める、受け入れる能力が育まれるということなのです。

それが感性豊かな表現力といえます。

住の江幼稚園の音楽教育はすばらしいのか？

音楽の基本も楽しいことです、音苦になってはいけません音楽であるべきです。住の江幼稚園の音楽教育は情操教育の一環として、古くから力を入れており定評があります。もちろん音楽が好きな子、苦手な子、と個人差はありますが、子どもたちがいろいろな経験を通して成長するきっかけとなるように、和楽器・洋楽器等の良さを豊かに表現できるように、様々な研修会に参加し、専門講師の指導のもと住の江幼稚園独自の音楽教育メソッドが優れた指導の秘訣なのです。

住の江幼稚園名物？どろんこあそび？

なぜ、住の江幼稚園ではプールは夏だけなのか、と聞かれたことがあります、水泳は体に良いのですが、プールと言うのは着替えに時間がかかります、大切な保育の時間を一年中着替えに時間を取られ、プール後に疲れたあとの子どもたちの体力を考えると、幼児期に与えてあげるべき大切なことや、現在行っている住の江幼稚園のこれだけ充実した内容や保育のクォリティーを保つには、プールは夏だけと言う結論になりました。また、どろんこあそびも夏だけです。どろんこあそびは、子どもたちのだいすきな活動のひとつです。水あそびといっしょで、季節物ですので夏だけになります。でも、砂遊び、土遊びは春・秋もたっぷりいたします。

「どろんこあそびの必要性」についてお知らせしたいと思います。暑い日が続くと、子どもたちは「待ってました！」とばかりに園庭で水あそびを楽しんでいます。本園では水、砂、土を自由に使って遊べるような環境を整える努力をしています。それは、子どもたちが成長する過程でそれらを使って遊ぶことがとても重要だと考えているからです。というものの、「洗濯する人の身にもなってよ！」とお母さんたちの声も聞こえてきそうです。しかし、どろまみれになって遊んでいる子どもたちの目の輝きを見ると、「すみません。今日もお洗濯お願いします。」としか言えません。

なぜ、どろんこあそびが すきななの？

その答えは正確にはわかりません。ただ、「汚い、気持ち悪い、後が大変！」というのは大人の思いであって、(時々、そう感じているような子どもも見かけますが、そのような子どもは大抵の場合、今までそうした遊びをしたことがなかったり、そういった遊びに関して厳しく制限されてきたりしたような子どもです。慣れてくれば、ほとんど100%の子どもが水、砂、土、泥に自ら関わって遊び始めます。) 子どもたちは本能的にそうした遊びを「楽しい！気持ちいい！」と感じているようです。

わが園では、こうした遊びをととても大切だと考えていますが、それは単に「子どもたちが好き

だから」という理由以外にも以下のような効用があるからです。

どろんこは 自分を表現しやすい

こうした自然物、特に水、砂、土（泥）は子どもたちの身も心も開放し、「本来の自分」を表に出しやすくしてくれます。新入園や途中入園などで、まだ園に慣れておらず不安でいっぱいの子どもや何らかのストレスを溜め込んでいる子どもがこうした遊びを通して、よく笑い、よく喋るようになり、お昼ぐらいにはスッキリした顔で部屋に入ってご飯を食べているなんていう姿をよく見かけます。心の壁が取り払われてストレスを発散した上で、「思いっきり遊んだ！」という満足感も得られやすいのです。

どろんこのやわらかさは 子どもにちょうどいい

こうした素材は、子どもたちの働きかけに対して容易に変形したり、元に戻したりすることができます。こうした素材を難しい言葉で「可塑性（かそせい）が高い」と言います。乳幼児期には特にこうした可塑性の高い素材に触れて遊ぶことが大切とされています。水や砂、土、どれをとっても一つの素材だけでも様々に形を変えるので、子どもたちにとって不思議で面白いものなのですが、それらを混ぜ合わせることにより、しかもそれぞれの量を加減することによって、固さや感触が変わるので、それによってさらに子どもの興味が掻き立てられ、積極的な活動が引き起こされます。どの年齢の子どもであっても、自分のイメージに合わせて遊ぶことが出来る素材でもあります。崩したり、作ったりを繰り返す中で、想像力（思い描く）や創造力（工夫してつくりだす）、集中力、忍耐力などを養う基礎を身に付けていると考えられます。

健康な身体作りにも 効果的

健康な身体作りにも役立ちます。戸外でこうした素材に直接触れることは、適度な刺激となり、

皮膚も鍛えられ、また雑菌に対する抵抗力も強くなります。さらに遊びに集中することで、視覚、聴覚、味覚、触覚、臭覚など五感も磨かれていきます。この五感を磨く

人生に必要な基礎作りにも効果的

ことは最近の子どもが特に弱くなったとされる「感性」を磨くためにもとても大切だと思われま

す。

こうした遊びを通して、仲間、集団ができやすくなります。「人生の知恵は全て幼稚園の砂場で学んだ」という有名な言葉がありますが、友だちと協力しあって山や川を作ったり、時には道具を取り合い、イメージの違いなどからトラブルになったりすることもあります。しかしそうしたトラブルを経験することも、その後の人生において非常に大切な体験となるわけです。

「自己肯定感」も 育てます

高垣忠一郎さんという方が小学校2年生を対象に行った調査において、自己肯定感の高い子どもたちの多くは、「どろ遊びやままごとやごっこ遊びを夢中になってやった」「遊びのことで、友だちと喧嘩した」「新しい遊びを考えたり、今までの遊びをつくりかえたりした」体験を持っているのだそうです。「夢中になって遊ぶ」という経験が自己肯定感を育てていくのでしょうか。世界各国の子どもの中で、日本の子どもは群を抜いて自己肯定感が低いのだそうです。「自分に自信が持てない」「自分のことが好きになれない」「自分の良い部分を見つけられない」といった子どもばかりなのです。最近の若者による犯罪やいじめ、その他様々な問題の根底には、こうした子どもの意識が関係しているのではないかと思えてなりません。

他にもまだまだ限りなくありそうです。「どろんこ遊びはなぜ必要か？」という問いに、満足のいく答えになったかどうかわかりませんが、「どろんこ遊びも結構大切なんだな」と感じていただければ幸いです。家庭ではなかなかできないダイナミックなどろんこ遊びを、ぜひとも幼稚園で思う存分子どもたちに体験させてあげてください。そして「また洗濯物を増やして！」ではなく、「今日もいっぱい遊べてよかったね」と声をかけてやってください。

あらためまして・・・。「お洗濯、よろしくお願ひします！」

文字、体育・・・なんでも基本は楽しさと興味から

文字遊びは子どもたちの興味の範囲内で、座って話を聞ける姿勢を目的に少しずつあそびながら学んでゆきます。

そして、英語の先生、体育の先生は園児たちに大人気です。それぞれの担当講師も子どもたちの興味や関心、発達段階を踏まえて、カリキュラムを作成しています。

素うどんのような保育とは？

私はよく**素うどんのような保育**を、と言っています。ある料理人が料理で一番難しい料理は？と聞かれ、「素うどん」と答えたそうです。うどんとだしのみで、**トッピングでごまかせないから**だそうです。保育も同じだと思うし、保育は、その園のオリジナル〔オリジナリティ〕が大切だと思います。

幼児期の保育〔教育〕は教えることと $+α$ なのですが、 $+α$ の方がとても大きいのです。それは年齢が低ければ低いほど $+α$ が大きくなります。保育の究極は、**園児と担任との関係**いう事になるのですが、そこで担任の子ども〔園児〕への関わり方の質が問われるのです。我々は、保育環境や教材よりもまず、保育者の園児への関わり方を重視しています。**保育環境や教材が豊富でも関わり方がまずいと子どもたちの成長はあまり期待できません**が、環境や教材が豊かでなくても、関わり方の質が高いと子どもたちはとても成長します。だから住の江幼稚園では、担任の指導力、保育力、特に基礎保育力（トッピングでごまかせない）の養成を重視しております。

住の江幼稚園の積木教育ってなに？

『積み木』はアメリカの心理学者ギルフォード博士の知能構造論を基に開発されたものです。

(1) 図形 (2) 記号 (文字や数) (3) 概念 (言葉や文章)

の三領域にわたって知能を刺激し、理解力・記憶力・創造力・論理的思考力・比較判断力の各能力を高め、遊びの中から課題に対し柔軟かつ論理的に解決することができる、**子ども達の『考える力』を養うことを目的**とした知育教材です。

大脳生理学的に6歳までに脳の8割は完成し、10歳位で知能の発達はほぼ完成に近い状態になると言われています。幼児期に遊びを通じて適切な刺激を与えていくことは、子ども達が成長する上で非常に大切なことなのです。

知能は学習する力、つまり将来学力や社会生活を営んでいく力を高めるための容器(うつわ)の様なものです。子どもの可能性を高めるのが、『積み木教室』です。幼児の段階から『積み木』という具体物を使い知能全体を活性化させ、活発で想像力があり、更に学ぶ姿勢も同時に養うことが最大の目標です。

『積み木あそび（知能）』

150種類もの知能の要素からなるギルフォードの理論をベースに、約10種類のつみぎを使いながら、子ども達が夢中で遊ぶうちに次のような学ぶ力を高めていくことができます。

- (1) 集中力の持続
- (2) イメージ力（頭の中で思い描く力）
- (3) 転換力（色々な角度からものを捉える力）
- (4) 評価力（正しいことを判断する力）
- (5) 見通す力（行動の予測をたてられる力）

取り組む姿勢を養う

具体物を使って、どうすればいいのかを自分で見つけていきます。

どの子にもあったレベルで刺激するので、集中力が違います。

短期間に身に付くものではありませんが、人から教わったものと違い自分で勝ち取った能力は応用ができ、あらゆる面で伸びていきます。

『数あそび（算数）』

「数」の理論にはイメージ力・計算力・論理性の三つの相互の働きが非常に重要となります。数あそび（算数）は、幼児の段階から「積み木」という具体物を使い、小学6年生までの数的な範囲を自分の手で触れ、耳で聞き、目で確かめ、考え気づかせながら次のことを目標としたかず指導教育です。

- (1) 具体物を使い、数に対するイメージ力を養う。
- (2) 柔軟な思考力（様々な答えの導き方を養う）
- (3) 論理力（順序よく考えたことを整理し理解する力）

話を聞く姿勢を養います。

“一度で話が聞き取れない”

“話を聞いて行動できない”

“何度も同じことを言われる”

“一つの遊びが長続きしない”

幼児の算数遊びでは、数を扱いながら、この力を付けることで物事の吸収率を高める事が大きなねらいです。

われわれのねが

資源のない日本を支えていくのは、人であり、世界をリードしていく力は賢さ、思考力です。この賢さは幼児期であれば誰でも鍛えることができます。ものの違いに気づかせたり、先を見通さないとできあがらない課題や、目に見えない部分を考えたりしていきます。また、難しい課題になったときに、考え方を変えたり、発想の転換をしたり、粘り強くあきらめない気持ちなど、生きていく上で大事な要素を培っていきます。考え方、頭の使い方は、訓練によって、変わっていきます。子どもたちが直面する社会に出る前に、足腰を鍛えるように、柔らかく頭を作りたいのです。

幼稚園によくいただく質問にお答えします

Q、 たまたま近所に同じ幼稚園に通う子がいないので、帰ってから遊ぶ子がいないのではないかと心配しています

A、 ご近所には幼稚園や保育園などいろいろな子がいることと思います。それが普通のことですし、子どもは園が違って誰とでも遊ぶようになりますから心配はないと思います。もしくは、預かり保育を利用され、たっぷり幼稚園で遊んでいかれてはいかがでしょうか？

Q、 まだオムツが取れてなく、着替えなど自分の事がほとんど出来ない子ですが大丈夫でしょうか？

A、 オムツは入園までに取れていることが大切ですが、成長過程には個人差がありますので、あまり無理強いされず、とにかく元気に明るい気持ちで登園されることを望みます。集団生活の中で自然と取れていく子もいますし、タイミングも大切です。

なお入園後はオムツではなく、下着（またはトレーニングパンツ等）で登園して頂きます。洗い替えの下着もたっぷり持参して頂きます。がんばりましょう。

Q、　　ウチの子は言葉が遅いような気がして心配です。

A、　　子ども同士の会話の中から語意も増え、言葉も覚えていくものです。あまり他の子と比較されることなく、我が子の成長を見守ってあげて下さい。年長児になってもうまく会話ができない、理解力が足りないなどと不安に思われる時は、共に考えていきましょう。

Q、　　食物アレルギーなのですが、除去食はしてもらえますか？

A、　　卵、小麦、大豆の三大アレルゲンを主に、乳製品等の除去食を行っています。個別のご相談も承ります。また、対応がどうしても難しい食物の場合は、持参して頂くことも方法もあります。

Q、　　体育、英語、音楽、絵画、積木と盛んなようですが英才教育では？

A、　　幼児ですので遊びながら学ぶことを基本としています。いろいろ体験・経験しながら、自分の持っている可能性の芽を引きだしてあげたいと思いますし、子どもたちのやりたいこと、やれそうなことに、助け船を出してあげる（その機会や環境をもうける）ことも私たちの大切な仕事だと思っています。これらたくさん体験が将来子どもたちの夢につながれば幸いです。

Q、　　今から幼稚園に行きたがらないのですが。

A、　　今までの、お母さんにベッタリな生活から離れるということは、子どもたちにとっては親離れの一步、お母さんにとっても子離れの第一歩です。試練でもあります。不安なことと思いますが、大切な人生の第一歩ですから、子どもたちを励まし、楽しい雰囲気です導いてあげてください。「案ずるより産むが易し！」です。5月、6月になる頃には心配したことが嘘のように笑顔で通園してくれることでしょう。

Q、 わがままで言うことをきかなくて迷惑をかけそうで心配です。

A、 一人ひとりに個性があるようにそれぞれに成長過程があります。それを導いていくのが私たちの仕事です。幼稚園では善悪（していいこと、いけないこと）がしっかり身につくよう躰とけじめを大切にしたいと思います。集団生活でのルールを守り、みんなで仲良く楽しく遊べるよう援助します。入園して1~2ヶ月後のお子さまの成長ぶりを楽しみにして頂きたいと思います。なお、反面ご家庭では入園前よりもわがままになるお子さまもみえます。子どもたちにとってお家は発散したり甘えられる場ですから、その理解も大切です。

Q、 3年保育にするか2年保育にするか迷っています

A、 時折、こんな相談を受けます。 あなたに以下の4つの問いかけをしてみますので、お答えください。

1 / 子どもは生後一年を経過した頃より、自分と自分以外の人の区別や、自分の母親や同居している親族と他の見知らぬ人を区別することが出来るようになります。人見知りが出てくるのも、ちょうどそのころです。ですから、人見知りをするという事は、子どもが着実に周りの事柄を判断し、自発的に意志表示ができるようになってきたという、素晴らしい知恵を発達させている証拠にもなります。そのような時期を経て、3歳前後になると心理学では「自我の目覚め」と呼ばれる「3歳の反抗期」が出現します。それまでは、母親を中心とする養育者に、ある意味ではなされるがままの子どもが、突然、大人側にとっては「反抗」しているように見える行動を取り出します。今までは親が用意した服を素直に着てくれたのに、これは嫌だ、あれがいいと主張し出す。急いでいるからと、玄関で急いで靴を履かせて、さあ、出かけようと子どもの手を引いたとたん、その場で泣きわめきだし、靴を放り投げて怒り出す、といった状況が一日の中に何度も出現してくる頃・・・

問1 / あなたはこのような子どもの姿に冷静に対処し、自分の機嫌が良ければ状況を受け入れ、対応できる？

問2 / あなたの家の周りには、日中、異年齢の子どもが「群れて遊ぶ環境」がある？

問3 / 砂場で、他の子どもと砂場道具の取り合いによってけんかを始めようとするときに、少しの間、見守ることが出来る？

問4 / 兄弟が多く、いつも異年齢の子どもが群れて遊べる環境がある。

上記の4つの間に、「はい」が過半数を上回る環境で生活してる子どもは、3年保育に無理に入園する必要は無いかも知れません。また、3年保育の方法も、幼稚園によって様々方法が違います。子ども達は可塑性（変化しやすいグニャグニャの状態）に富んでいます。

私たちが3年保育の環境で重要だと思っているのは、子ども達がまずは「何でもやれる」「何でも言える」という環境の中で自己主張することがとても重要だと考えています。その状態を想像していただけるとおわかり頂けると思いますが、自己主張のぶつかり合いが自然に起こります。当然、そのことを放任して於くわけではなく、その起こったぶつかり合いの処理を、自分達で解決できるような援助を、3年間かけて段階的に援助していくことになります。これとは別に、力の差が歴然としている子ども同士のぶつかり合いは、保育者が介入し、止めます。このことは許されません。いじめっ子を放置し、認めているわけではありません。

幼稚園は社会の縮図です。自己主張の強い子ども、そうではない子ども、活発な子ども、そうでない子、器用な子、不器用な子、身体を動かすことが好きな子、そうでない子、それこそ、私たち大人の社会と同じです。ただ、少し違うのは、子ども達はちょっぴり私たちよりも可能性を多く持っていることくらいです。

その子どもがその子らしく光ってくる。そのことが私たちの3年保育の目的ですので、この趣旨にご賛同いただければ、ぜひ住の江幼稚園の3年保育においでください。



のびのび、いきいき、わくわく。

住の江幼稚園